

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第5回武蔵村山市農業振興計画策定検討委員会
開 催 日 時	平成29年6月1日（木）午後3時30分から5時30分
開 催 場 所	403会議室
出席者及び欠席者	<p>出席委員：北 沢 俊 春 東京都農業会議事務局長（委員長）</p> <p>今 安 典 子 東京都農業振興事務所農務課課長代理</p> <p>高 山 充 則 武蔵村山市農業委員会会長（副委員長）</p> <p>山 田 和 男 武蔵村山市農業生産組合組合長</p> <p>奥 住 雄 一 武蔵村山市農友会会長</p> <p>荒 幡 善 政 認定農業者</p> <p>下 田 智 道 認定農業者</p> <p>鈴 木 寿 子 武蔵村山市消費者団体連絡会</p> <p>永 村 清 市 公募市民</p> <p>細 野 敏 彦 公募市民</p> <p>欠席委員：高 橋 誠 武蔵村山市商工会事務局長</p> <p>小 暮 保 東京みどり農業協同組合村山支店支店長</p> <p>高 下 慎 吾 ダイエー武蔵村山店副支店長</p> <p>高 梨 和 人 公募市民</p> <p>事 務 局：協働推進部長 比留間 毅 浩</p> <p>協働推進部産業振興課主査 井 上 ひとえ</p> <p>協働推進部産業振興課主事 石 川 彰 彦</p>
議 題 等	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 第4回武蔵村山市農業振興計画策定検討委員会会議録について</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 武蔵村山市第三次農業振興計画素案について</p> <p>(2) その他</p> <p>4 閉会</p>
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	<p>3 議題</p> <p>(1) 武蔵村山市第三次農業振興計画素案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換を行い、適宜修正を行う。</li> </ul> <p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回会議は、7月13日午後2時からとする。</li> </ul>

<p>審 議 経 過  (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)</p>	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 第4回武蔵村山市農業振興計画策定検討委員会会議録について  (事務局)「第4回武蔵村山市農業振興計画策定検討委員会会議録」について、  修正意見は今のところない。</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(委員長) よろしいか。  意見がないようなのでこれで決定する。</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 武蔵村山市第三次農業振興計画素案について  (事務局)「資料1 武蔵村山市第三次農業振興計画素案」について説明</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(委員長) 素案の構成、大まかな内容を説明いただいた。まずは、構成についてご意見をいただきたい。</p> <p>(委員) 27ページの戦略プロジェクトが第3章ででてくるが、将来像の中身を説明するのが28ページからなので、その後に移してはいいかがか。37ページの後とか。戦略プロジェクトがわかりにくくなっていると思う。</p> <p>(委員) 後のほうがよいと思う。</p> <p>(委員長) いきなり出てきており、異質な感じがする。イメージを変えてみてはいいかがか。</p> <p>他に。</p> <p>(委員) アンケートの結果を載せているが、ピックアップしたものでもあり、あった方がいいような、無くていいような気がする。</p> <p>(委員) 最後のまとめ方だと思う。初めてこれを見る人はどのように感じるかということだと思う。私たちはこれまで見てきているのでわかるが。</p> <p>(部長) 市ではいろいろな分野でいろいろな計画を作っている。多くの計画が、アンケートは冊子にはまとめてあるが、要点を計画に取り込んで構成しているというパターンが本市では多い。</p> <p>(委員長) 計画を作るには、農業者などの意向を把握して、それを踏まえて検討するという事になっている。</p> <p>(副委員長) 市民アンケート、農業者アンケートと書いてあるのがわかりづらい。市民が求める農業の姿というようにしてはいいかがか。農業者が求める姿、など。見出しの整理の仕方でわかりやすくなるのではないかと思う。</p> <p>(委員長) 構成としてはここにおいて、見出しを変更するという意見である。</p>
--	--

(副委員長) もう少しコンパクトにできたらいいと思う。武蔵村山市の農業の現状とか、数行で整理してはいかがか。

(委員長) 新聞で言えばリードの部分に相当する。コンパクトにまとめたものがあると、言わんとしているところがわかる。そういう意見である。

(副委員長) 第2章が、第3次農業振興計画ということか。

(部長) 実質の中身は第2章である。第1章、第3節の見出しを工夫したい。

(委員長) 見出しを「市民が求める農業の姿」などとし、その下にリードを入れればわかりやすくなる。

P 1の2は異質のような感じがする。付録の扱いでよいのではないかと思う。

(委員) P 2の計画の位置付けにも出てくるので、P 1には無くてもよいと思う。

(委員長) P 4 2に詳しく書いてあるのでいらないと思う。P 4 2では、認定農業者のことを詳しく紹介してはいかがか。

(事務局) 検討する。

(委員) 都市農業振興基本法で、国の施策が大きく変わった。農地は大事だから守っていこう、となった。目的の所に入れるなど、どこかに記述しておく必要がある。

(委員) 策定の目的に、その記述を入れてはいかがか。

(委員) 第2章第1節を、「目指すべき武蔵村山の都市農業の姿」としてはいかがか。

(委員長) 目的、背景、経過を入れて整理してはいかがか。

(部長) P 1の目的を膨らませて、2を削除する方向で検討する。

(委員長) 多摩開墾も大事なところであり、その部分も、農産物の重要な生産基地であるとか、そのために計画を作るんだとか、そのような構成にしてはいかがか。

(部長) 検討する。

(委員) P 3 8の計画の進め方について、このイメージはどのように想定されているか。具体的にこの10年間で計画を実行するための方法が一番大事だと思う。

35人の認定農業者をどうしていくか。認定農業者を充実していく、増やしていくためにこの10年間で何をやっていくかということ、前中後期くらいの区分で示してはいかがか。農協、普及センターを巻き込むとか、認定農業者をもっと充実していく取組みが無いと、第2次計画と同じように難しくなる。事務局3人で、できるだろうか。

学校給食、多摩開墾など、どうしていくか。そのためにはチームが必要になるのではないか。販路の拡大をどうしていくかとか。

それをどうやっていくか。これから具体的に検討することだと思うが。

(委員長) 戦略プロジェクトとの関係も出てくる。

(委員) 重点をやっていく戦略プロジェクトではないように感じる。

(委員長) 具体的な検討に入っていきたい。

(部長) 39 ページに、推進体制のところ、庁内の関係各課で体制を作ること  
を記述しているが。

(事務局) 戦略プロジェクトの一つを、たとえば多摩開墾のプロジェクトを作っ  
て進めていくというようなイメージでよいか。

(副委員長) 1年、2年かけて、チームを作るところから始めて、検討していく。  
たとえば、学校給食に農産物を提供するのがこのままでいいのか検討す  
る。どのようにしていけば地産地消になっていくか。そのためにはどこ  
で誰がどのような野菜を作るか。大掛かりになってくるが、そのような  
ことを検討していったらいいか。

(委員) 食育の推進計画をやったときに、他地域の例で、情報共有だけでなく  
それを進めるプロジェクトがあって、企業を巻き込んでかなり進んでい  
た例があった。市民も巻き込んで、具体的に一步進んでいる。

(委員長) どの項目を行うかは別として、ワーキンググループのようなものを作  
って一つの事案を検討していく。一つの課題について、実行まで、提案  
までできればということだと思う。

(部長) 行政内部だけでは、いろいろな事業を推進するにも関係機関の連携協  
力が無いと進まないの、PTなどを組んで、推進体制として組織を作  
って進めたほうがよいということか。

(委員) 行政はコーディネーター的役割を担うことだと思う。人をつなげたり  
する。行政だけで実際にやるには限度があるので、ここで精いっぱい  
ということでは止まってしまうと思うので、出来る人がやれるようにする。

(委員長) 土俵作りをしていただければ、ということだと思う。各主体が参画す  
る計画推進委員会を、より具体的に書けばよい。

(部長) いろいろな主体を交えて実働部隊を作って、ということか。

(委員長) 小平で学校給食が多くなっているが、小平では学校給食プロジェクト  
を作って、学校給食の栄養士、JA、農家などがいて、課題を検討した  
ところ、運ぶのが大変と言うことで市が支援を行うこととなった。4~5  
回検討したと思う。同じように、多摩開墾についても検討していければ  
と思う。戦略プロジェクトをどう見直していくかということにもなる。

(副委員長) 農友会や経営者クラブもあるので、イベントもできるし、観光バス  
ツアーも農と連携していくことができる。

(委員長) いろいろな人が参加してくると、実際に動いていただけるようになって  
くる。自分たちもいっしょに企画し、重点課題をみんなで考えてやっ  
ていく。

計画の内容について検討したい。P24から。

P25に農地面積の目標が130ヘクタールとあるが、多摩開墾と生産  
緑地の目標を合わせて145ヘクタールになるので、145ヘクタールを農  
地面積の目標としてはいかかがか。

(委員) 認定農業者への支援について、43人に増やすための取組を入れる必要がある。PRをして増やしていくことを書きこんではいかがか。補助金という施策名はふさわしくないと思う。

③の農業経営の近代化への支援は以前の計画に残っていた施策であり、①と重なっているので、③の近代化は消して、労働力確保への支援としてはいかがか。ヘルパー制度は、あまり聞かなくなっているので、雇用をきちんと入れてはいかがか。雇用労働の検討、お金を払って雇える方は雇っていくことを記述してはいかがか。

(委員長) 農業経営の環境整備ということなので、獣害も心配だからきちんと書いておく。労働力の確保も書いておく。

(委員) 農業共済のほうでセーフティネットである収入保険があるが、かなり進んできているので入れてよいのではないか。

(事務局) 青色申告が条件の制度である。

(委員) 収入が何割か減った場合、9割まで補てんするというもの。農業を行っている取組を支援しようという制度だと思う。

(委員長) 技術の伝承については、労働力の確保、家族外労働の確保、援農ボランティアの確保は重要である。

(委員) 現場を見ていると確かにある。武蔵村山でも「うど」をやっている人がいなくなっている。

(委員長) 指導農業者制度だけだと狭くなってしまうので、市内の農業者の研修会があってもよい。等を入れて、農友会や経営者クラブと一緒に市内の農家を回ってみることがあってもよい。

(委員) 国分寺だと思ったが、ボランティアが入るにあたって、まず学校に入る仕組みになっている。そういうことも考えてはいかがか。

(委員) 援農ボランティアの始まりは国分寺であり、学校ありきのボランティアの仕組みとなっている。

(委員長) ○○塾というイメージでもよい。いろいろな名称で行われている。プロジェクトの2のイメージかもしれない。援農ボランティアの入口の部分の支援ということで。

(委員) 援農ボランティアの派遣体制の確立とあるが、そのために技術を身につけていただく必要がある。今はどのように派遣しているか。

(事務局) 今はいきなり農家に行っている。

(委員) どのように市民は知るか。

(事務局) 広報などで募集している。希望者に登録していただいている。

(委員長) 市民と農業者と、双方がそれぞれ手をあげているということですね。

(委員) 西東京市では、農業アカデミーで技術研修をすることになっている。以前は、武蔵村山と同じような仕組みであった。国分寺はきちっとやっているが、一方で、変な知識を持ってくる人もいて困るという農家もいるようだ。自分で純粋培養して育てた人のほうがいい、と言う人もいる。他市の事例を含めて検討する、ということでよいと思う。

(委員長) 長野県の塩尻がうまくやっている。一人張り付いて支援を行っているものであり、八王子の例も似ている。いろいろな事例がある。

(委員) 町田市はNPO法人が担っており、有償であるがそれがないと成り立たない農家もある。

(副委員長) それをプロジェクトにして検討していてもいい。

(委員長) いい体制ができるのではないかと思う。  
ボランティアは30人で足りるか。

(委員) 私のところでは現在3人いるが、もう少しいてもいいと思っている。都の広域サポーターの果樹コースのつながりである。市民が2人、所沢市民が1人である。

(委員) うちは生協を通して募集していただいている。

(委員長) 助かっていると思うので、そのようなこともプロジェクトで検討していければよいと思う。

(事務局) 希望する農家が増えない状況であるが、もう少し増えてくれば目標を上げてよいと思う。受け入れている人と、受け入れない人とがあるので、検討していきたい。

(委員) 担い手では雇用という選択肢もあり、障害者雇用も含め、あらゆる可能性を入れてほしい。

(委員長) 32 ページ、耕すについて。

(委員) 農地の多面的活用で、施設の整備と協定の締結とあるが、どのようなことか。

(委員) 防災のことで、避難場所へ行く前の一次的な避難所として使用してよいということで、井戸を電気が止まっているときに手押しポンプで使えるようにするもの。

(委員) 市街化区域内の農地で流動化ができるか。

(委員長) 農地法でない法律を考えているようなので、それを踏まえていく必要がある。

(委員) 相続に影響がでないような貸し借りができればと思う。

(委員長) 続いて35 ページ、潤うについて。

(委員) 都市農業基本法ができて、都市の中に農業があつてあたりまえ、となっているが、市民にどの程度行き渡っているか。バブルを経験している市民にはそれ何、という思いもある。その辺の進め方、市民とのふれあいがメインテーマだと思うが。

(委員) 市民体験農園を10年やってきた。見学会をやるが、2~3人くらいしか来ない状況であり、市民の中に興味がないと思う。若い人たちは、1回くるが、農業の大変さがわかると来なくなる。体験農園は規制があつて、いつ植えてとか、それがめんどうだという。土日しかできない人は1週間延ばすと作物がだめになってしまい、途中でやめる人も多い。

(委員) 情報が行き届かない人には、都市の中に農地があると砂ぼこりとかマイナスイメージが気になってしまう。都市農地がどうして大事なのかを、伝え

る必要があると思う。

(委員長) 新鮮な野菜を食べたいという思いはあるか。

(委員) 体験農園は目で見えるので、安心して食べさせられる。

気になるのは、以前、体験農園の補助があったが、打ち切りになった。

(部長) 開設するときには補助金がある。

(委員長) 開設した後のアフターケアがあったということらしい。

市民に理解していただくには、PRなど努力が必要だと思う。

(委員) 35 ページに、新たに体験農園の開設を南部に、とあるが目途はあるのか。農地があるとか、協力してくれる農家がいるとか。

(事務局) 現状は目途があるわけではなく、大南、学園、榎あたりにほしいということである。

(委員) 保育園のジャガイモ堀とかやっているが、南のほうでそういうところがあればいいということですね。

(委員長) 市民にも、自分で作って食べてみたいとか、収穫だけやりたい人とか、いろいろあると思う。収穫体験事業は、トマト、ねぎ、そういうことをイメージしているか。それとも交流会のことか。

(事務局) 収穫したものをみんなで食べたり、農業の話を知ったり、というイメージである。

(委員) それを企画したが2~3人しか集まらなかった。

(委員) 昨年の企画では、雨の日だったが10組くらい参加があった。

(事務局) いい経験だったという声もあった。

(委員) PRすれば、もう少し参加があると思う。

(事務局) 37 ページの⑤に収穫体験、市民の理解の促進などを入れる。

(委員長) 学校給食28%を35%にするのは大変だと思う。

(委員) 年々右肩上がりが増えてきている。取りまとめる農業者担当が大変であるが、各野菜の担当をつけて対応している。給食センターから連絡があると、作っていない野菜はカットしながらまとめている。

(委員) 農家の負担になっているので、こんなことをやっているのは武蔵村山だけだという話もある。

(委員) 小平のような、行政とJAと農家ときちんと調整していただければ、農家の負担が減ってくると思う。

(委員) 取りまとめている農業者担当への若干の手当てとして、売り上げの1%とか決められればやっていけるのではないかと思う。

(委員長) 要望されたものを、それだけ納められるのはすごいエネルギー、生産力はすごいと思う。

(委員) 栄養士さんが、いつ何が採れるかわかるようになってきた。武蔵村山産に合わせた献立にしている。

(委員) もう少し拡大してスムーズにやれるようにしていけば、JAもまきこんでやっていけばよいのではないか。

(委員長) 市民でやる人が出てくるのではないか。

(副委員長) 量が多くなってくれば、そのような方法も考えられる。

(委員) J Aがやるとなると手数料が発生してくる。

(委員長) みなさんハートがあるから出来ていると思う。

(委員) 小松菜がもっとも多く提供されている。

(委員) 農産物を利用した講習会の開催の実施主体に、健康推進課を入れたほうがよいと思う。子どもだけでなく、大人も含めて食育を進めていくように。

(委員) 合わせてJ Aも入れてはいかがか。

(委員) 36 ページ、観光農園担い手支援について、担い手とはどういう人を想定しているか。自分でもぎ取る手間を省くために観光農園にしているので、ボランティアで増えるか。

(事務局) 高齢化が進んで、みかん園がなくなってしまうことのないように、という趣旨である。

(委員) 37 ページ、観光農園担い手推進は、表現を見直してほしい。

(委員長) みかん園を想定しているのであれば、観光みかん園と明記してもよいと思う。

(委員) みかんは基本的に斜面で作っている。狭山丘陵の斜面はほとんどが公園用地に指定されており、後継者がいない農家では相続が発生すると売ってしまうと思う。そういう意味では増やすノビシロはもうない。

(委員) みかん以外の観光農園はどうなっているか。

(委員) ブルーベリーは、価格が合わないため止める人が多い。3 年で止めてしまった人もいる。

(委員長) みかんの先に富士山がみえたり、景観としてすばらしい。景観を含めて、市としての財産にもなっている。そういう提案もよいと思う。

プロジェクトについては。

(委員) 戦略プロジェクトは、次回、じっくり検討したほうがよいと思う。

(事務局) 次回まで素案を修正し、改めて提示したい。

(委員長) プロジェクトについて、皆さんの意見を紙で出していきたい。

先が見えてきたような議論ができたと思う。計画ができた後が大事だという話もできた。

(委員) 認定農業者の経営モデルについて、モデルが成り立つか、普及センターにみてもらったほうがよい。

多摩のほうのプランも 29 日にプレス発表されたようだ。

## (2) その他

(事務局) 次回の会議は、7月13日(木)午後2時からとする。

## 3 閉会



